リオ州日伯文化体育連盟
理事長　鹿田　明義

リオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所創立五十周年を祝い

このたび、リオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所が創立五十周年を迎えられました事、心からお祝い申し上げます。又、その記念行事の一環として商工会議所五十年誌を刊行されます旨おめでとう御座います。

戦後、1952年サンフランシスコ講和条約が発効、その翌年の1953年にはブラジルへの移住が再開され、1955年にはコチア青年が始まりました。

当時、日本よりの進出企業は三井物産、三菱商事、伊藤忠の三社のみでありましたが、戦前からリオに在りました蜂谷商会などの僅かの日系企業で1955年10月、リオ日伯商業会議所が設立され、その後、1971年にリオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所と名称が変更になりました。

ブラジル日本移民史によると1938年1月11日、リオに日伯商業会議所が設立されています。当時、どんな企業が参加されていたかは現在調査中のリオ州日本移民史に詳しく載ると思います。

商工会議所と日系コロニアの関係は深く、蜂谷健九郎、亀井紹雄の両氏はリオ日伯商業会議所の創立当初から参加しており、また、1959年には当時のクビチェビック大統領の要請を受け石川島播磨造船所が建設されました。そして1971年にはリオに在りました日本大使館がブラジリアに移転して新たに総領事館が出来るなど、日本企業のブラジルへの進出も活発で、多くの会社がリオに事務所を開き、リオの重要性が一段と高まったときでもありました。

初代荒木外喜三総領事が就任されると「日系社会の交流機関が必要」と考えられ、時の商工会議所会長、大堀義信氏（石川島・ド・ブラジル副社長）始め、稲塚保氏（日立ラインマテリアル副社長）、川北泰三氏（ブラジル日本電気副社長）、宇佐美錬氏（東京銀行支店長）、高松信夫氏（ブラジル三井物産副社長）など、錚錚たる人たちと日系コロニアの長老が発起人に成って、リオ日系協会を創設され、大堀氏、稲塚氏、川北氏などが顧問に就任されました。それ以後も運動会、フェスタ・ジュニーナなどの行事を共催で行ってきました。

また、1995年の日伯修交百周年にはリオ州日系四団体のリーダーとして国立植物園内に日本庭園を建設、清子内親王殿下のご臨席と共にマルセイロ・アレンカール州知事のご参列を得て開園式を行い、全ての行事を立派に為し遂げられました。

さて、歴代の会頭を見るとその時代の趨勢が分かります。はじめは東京銀行の時代が続き、次にイシブラス、そして新日鉄。1988年に私は日系協会の会長だった訳ですが、当時の会頭、湯川正氏（新日鉄）とは共に移民80周年祭を祝った関係上、一言では語り尽くせない思い出があります。現在では三菱商事、三井物産といった商社の時代ですね。これからはどのように変わっていくのでしょうか。また事務局長を長い間務められていた魚谷渉氏、それから上野正信氏、竹内君平氏、現在の塚本善胤氏はもう6年になるとのこと。ご苦労様です。

昨年、小泉首相が来伯され、今年は、ルーラ大統領が訪日されました。これらの出来事が、長年低迷が続いてる日伯間の経済交流の起爆剤になり、両国間の更なる緊密化が促進され、若いてはリオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所が大いに発展される事を祈念申し上げます。